

矢崎仁司監督デビュー40周年メモリアル企画

伝説の映画『風たちの午後』デジタルリマスター版の製作へ

1980年に発表された矢崎仁司監督のデビュー作『風たちの午後』がデジタルリマスター版として制作が開始されることが決定しました。2019年春の劇場公開を目指します。

本映画は「女の子が女の子を好きになる」というセンセーショナルな内容で、恋愛に閉鎖的であった当時の日本から生まれたことは世界中に衝撃を与え、ヨコハマ映画祭自主製作映画賞に輝き、エジンバラ国際映画祭、モントリオール世界映画祭などいくつもの海外映画祭を駆けめぐった伝説の作品です。ただ、16mmフィルムで撮影されている為、映像や音声の激しい劣化があり、また使用楽曲の権利問題もあり、長い間、矢崎監督自らこの作品の上映を封印していました。しかし、公開から約40年が経とうとしている現在も、国内の映画館や海外の映画祭から上映オファーが相次いでいる背景を受けて、本作のネガフィルムを現代の高度な修復技術を駆使し、「デジタルリマスター版」として再び現代のスクリーンに甦らせることに挑戦します。尚、修復資金はモーションギャラリーにて一般から公募。支援者にはデジタルリマスター版限定DVDやオリジナルTシャツ、当時の復刻台本などの貴重なアイテムが提供されます。

矢崎仁司監督コメント

正確に覚えていないけど「映画は人と同じで歳月とともに死んでいく」という鈴木清順監督の言葉が好きだ。だからリマスターを作るより、新作を生み続けていきたいと思っていた。凡そ40年前、日本大学の学生だった頃、この『風たちの午後』を自主制作した。聞こえてくる音を幽かに残し、「観る」ことの映画を作りたかった。上映中の音量を下げるために、すべての上映に付き添った。だから日本中の各地を旅して、この映画の観客に出会った。初めての海外はエジンバラ国際映画祭だった。この映画を作ったことで、デレック・ジャーマン監督、侯孝賢監督、楊徳昌監督に出会えた、思い出深い作品です。また、ニューヨークでは、矢崎が女性なら、シャンタル・アケルマンやマルグリット・デュラスに匹敵すると言われ、作り手の性別を超えた記念すべき作品と評価されました。今も、ロンドン、香港などのゲイ・フィルム・フェスティバルから上映を熱望されているのに、フィルムの劣化と音楽の問題などがあり、皆さんに観て頂くチャンスがなくなってしまったのが残念でした。この度、ABCライツビジネスや映画24区さん、皆さんの力を借りて、もう一度、世界のスクリーンに映すことが出来ることは心から嬉しいです。また、世界中のこの映画の観客に会え、新たなエネルギーを新作に注ぎこみたい。ストーリーやLGBTなどの言葉すらなかった頃、人が人を愛することを、愛が動機ならやっちゃいけないことは、何一つないと信じて作った作品を、今の人たちに観てもらいたいと強く思います。

■製作：映画「風たちの午後デジタルリマスター版」製作委員会（ABCライツビジネス、フィルムバンディット、映画24区）

■企画・配給：映画24区

■問い合わせ：映画24区 電話番号 03-3497-8824 メール info@eiga24ku.jp